

# 鳥海イヌワシみらい館通信

Vol. 4 2012 秋号

発行：猛禽類保護センター（愛称：鳥海イヌワシみらい館）

〒999-8207 山形県酒田市草津字湯ノ台 71-1 TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683  
http://www.raptor-c.com E-Mail:moukin@raptor-c.com



「サシバ幼鳥」撮影：アクティングレンジャー 長船裕紀

さて、突然ですがクイズです。この後ろ姿の動物は何でしょう？ 答えは、この通信の「鳥海イヌワシみらい館に現れたお客様」の記事に書かれていますよ。



サシバは渡り鳥として、4～5 月頃に日本へやってきて子育てをします。カエルやトカゲ、昆虫類など様々な小動物をエサにするサシバは、生物多様性のバロメーター。

7 月 14 日、鳥海イヌワシみらい館の隣、遊佐町でサシバの子供達の巣立ちに遭遇することができました。2 羽の幼鳥が立ち枯れした木の枝から飛び立っていきます。彼らにはこれから、最大の試練となる「渡り」が控えていて、秋までの短期間で飛行や狩りの訓練などをしながら、広い海を渡りきる体力もつけなければなりません。シャッターを押す手にも、「がんばれ！」と無意識に力が入るのです。



# ～バードウォッチングへの誘い～ 第4回 探鳥の秋、猛禽の秋！秋の渡りを見よう！



夏鳥として日本にやってきて、子育てをしていたワシタカ達も、いよいよ冬を前に暖かい越冬地へと渡っていく季節です。ハチクマやサシバといったワシタカ達の勇姿を見ることができる、ワシタカファンには待ちに待ったシーズンの到来ですね。猛暑日が続いた日本列島。住み心地はどうだったのでしょうか。「こんなに暑いところ、二度と来ないわっ！」そんなこと言わないで来年も是非来て下さい。お待ちしております。

(絵：普及啓発担当 本間)

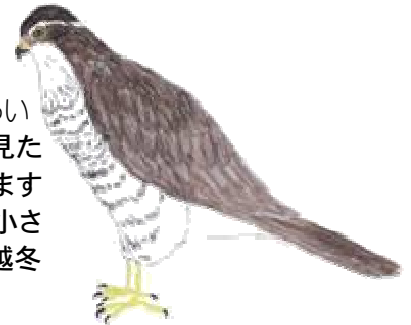
## 「ハチクマ」

大きさはトビと同じくらい  
ハチの幼虫やサナギを主食にする変わり者。体の色にも個体差があり、様々な色をした物がいます。東南アジアまで飛んでいきます。総移動距離は10000kmを超えることも。



## 「ハイタカ」

大きさはハトと同じくらい  
ハイタカ属の模式種。見た目はオオタカに似ていますが、大きさがずいぶん小さいです。西日本以南で越冬します。



## 「サシバ」

大きさはハシボソガラスと同じくらい  
日本では生物多様性の豊かな里山に生息しています。秋になるとハチクマと同じように暖かい東南アジアを目指して飛んでいきます。



## 「ノスリ」

大きさはハシボソガラスより少し大きいくらい  
トビと並んで最も身近なワシタカの仲間。移動距離も国内をちょっと移動するだけ。夏と冬、いつもの場所で見かけるノスリは、実は別の個体かもしれませんね。



## イヌワシってどんなワシ？③「イヌワシの鳴き声」

ここ猛禽類保護センターには「鳥海イヌワシみらい館」という愛称がついていますが、イヌワシってなに？と思う人や図鑑でしかイヌワシを見たこともない人もいます。そこでシリーズ3回目はイヌワシの「鳴き声」について紹介します。

町でもよく見かけるトビの鳴き声は「ピーヒョロロ」とわかっていても、その他のワシタカの鳴き声を知っている人はあまり多くはないかもしれませんね。なぜならワシタカ類は繁殖期以外あまり鳴くことはないからです。イヌワシも例に漏れず鳴き声を聞く機会はめったにありません。まして見ることでさえ難しい希少猛禽類であればなおさらですね。そこで、イヌワシの声をなんとしてでも聞きたいというあなた！なんと鳥海イヌワシみらい館の展示室にはイヌワシの声を聞くことができるコーナーがあるのです。生き物の声を人間の言葉に当てはめることを「聞きなし」といいますが（ウグイスは「ホーホケキョ」、ホトギスは「特許許可局」など）、イヌワシの声を聞きなしで表現すると「クァッ、クァッ、クァッ」が一番近い表現でしょうか。来館者にこの声を聞いてもらおうと、「あ～なるほど！」と納得の表情。そう、犬の鳴き声にそっくり（子犬かな？）。イヌワシという名前の由来も、この鳴き声からつけられたのではないかという説もあります。あなたもイヌワシの名前の由来を鳴き声から探ってみませんか？イヌワシの他にも12種類のワシタカの声を聞くことができますよ。





# イヌワシが見られる動物園③「盛岡市動物公園」



イヌワシを見てみたいけれど野生のイヌワシに出会うことはなかなかむずかしいものです。近くでイヌワシを見てみたい人や、確実にイヌワシの姿を見てみたい人は、動物園に行ってみましょう。第3回目は、岩手県盛岡市の「盛岡市動物公園」です。藤好浩之飼育員へ伺ってみました。

Q. 盛岡市動物公園ではいつからイヌワシを飼育しているのですか。  
「2003年の12月から飼育を開始しました。」

Q. 苦労されていることは何ですか？  
「飼育舎に入るときは、イヌワシたちを刺激しないよう、また、繁殖期には気が荒くなっているため、襲われないように注意しています。」

Q. 飼育員さんが思うイヌワシの魅力について教えてください。  
「空の王者にふさわしい大きな翼と力強い脚と爪、それと一見すると地味な色合いです。光の加減によりわかる“ゴールデンイーグル”の由来となった後頭部の羽毛の美しさです。」

Q. 来場される方に一言お願いします。  
「今年繁殖した『朝日』は、今では両親と変わらない大きさまで成長しましたが、羽色が黒かったり、翼と尾羽の白い羽毛が目立つといった幼鳥ならではの特徴が見られます。この機会にイヌワシをじっくり観察して見て下さい。」

Q. 現在飼育中のイヌワシについて教えてください。  
「『出羽』(♂：1999年生まれ)と『空』(♀：2003年生まれ)と『朝日』(性別不明：2012年生まれ)を飼育しています。」

Q. 盛岡市動物公園でのイヌワシ飼育の特徴はなんですか？  
「すごく広いという施設ではありませんが、イヌワシが止まり木から止まり木へと滑空する姿を観察することができます。」



盛岡市動物公園のある岩手県は北上山地など、日本有数のイヌワシ生息地としても有名です。東日本大震災では幸いにも動物や獣舎にはあまり大きな被害はなかったそうですが、ライフラインのストップにより、動物達の飼料や維持のために必要な燃料が不足するという事態に陥りました。しかし他の動物園の支援があったおかげで無事に乗り越えることができたそうです。今年は国内では初となるイヌワシの卵を長距離移送(秋田市大森山動物園～盛岡市動物公園)させての繁殖に成功して、新聞やニュースなどで話題となったことも記憶に新しいですね。また盛岡市動物公園の魅力といえば、イヌワシなど展示している動物だけではなく、園内の豊富な自然環境を活用した、昆虫や植物の自然観察や工作会などの楽しい催物も充実しているところです。岩手県を訪れる際はぜひ遊びに行ってみて下さい。

## 公益財団法人 盛岡市動物公園

〒020-0803 盛岡市新庄字下八木田 60-18

TEL 019-654-8266

開園時間：9:30～16:30

(ただし入園は 15:30 まで)

入園料：大人 500 円

小・中学生未就学児無料

駐車料金：無料

(※繁忙期等有料になる日もあります)

休園日：毎週水曜日、12月1日～3月14日冬季休園



# 地域のいきもの情報ボード

「地域のいきもの情報ボード」とは、鳥海イヌワシみらい館入り口正面に設置された専用ホワイトボードに、当館職員や来館者から寄せられたいきもの情報を集めて掲示しているものです。どなたでもご自由にプリントして、貼り付けることができますので、是非ご来館の際は情報をお寄せ下さい。通信では、3ヶ月ごとに掲示された新規の写真を紹介します。

この3ヶ月ではサシバの巣立ちに始まり、綺麗な夏の花やタヌキなどの哺乳類にもたくさん出会うことができました。猛禽類ではサシバ以外にもクマタカの記録を頂いたり、ハチクマの渡りやノスリの当館訪問などいくつかの出会いがありました。相変わらずクマの糞もよく見ますが、糞の香りの変化で季節のうつろいを感じる筆者であります。これから栗の淡い香りや、ヤマブドウ、サルナシなどのフルーティーな香りを感じることでしょう。



自由に使ってね



2012/7/14 サシバの兄弟

遊佐町の沢筋で繁殖し巣立ちしたサシバの兄弟です。

撮影:アクティングレンジャー 長船裕紀(以下O)



2012/7/19 ツキノワグマの糞

センターから直線距離にして1kmほどの路上で発見! 近くにも別の糞が有りました。クマとの遭遇には注意しましょう。撮影:O



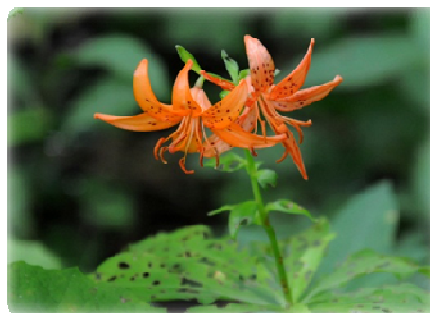
2012/8/2 オカトラノオ

センター脇を通る登山道の入り口付近で咲いていました。花から茎にかけてのしなり具合が素敵でしょ! 撮影:鳥海南麓自然保護官 水落朋子(以下M)



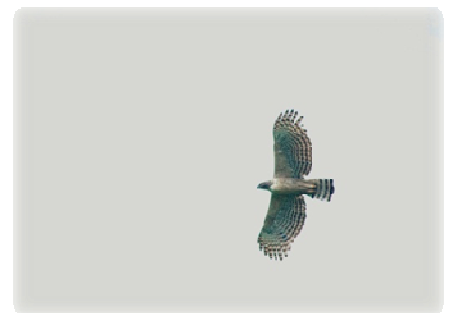
2012/8/2 ヤマユリ

センター脇を通る登山道の入り口付近で咲いていました。とてもよい香りがしていました。撮影:M



2012/8/8 クルマユリ

夏休み体験プログラムの「登山道散策」の際に、センター脇の登山道沿いで見つけました。かわいいですね。撮影:O



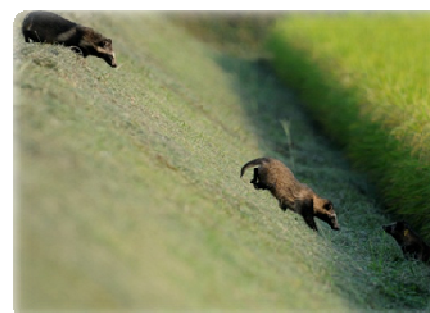
2012/8/27 クマタカ

酒田市八幡地区(撮影:高橋雄成)



2012/8/28 ホシガラス

鳥海山で猛禽類観察中、下方から断続的に出現。中腹の広葉樹林で見かけるのは初めてで少しだけびっくりしました。撮影:O



2012/9/8 ホンドタヌキ

通勤路にもなっている水田地帯の畦畔面でウロウロしていました。兄弟かもしれません。仲むつまじい姿を見せてくれました。撮影:O



2012/9/13 ノスリ

センターに時折姿を見せてくれるノスリです。よく駐車場の野外灯に止まります。撮影:O

アクティングレンジャー

# 長船が斬る！

チョウゲンボウ羽根展示の巻



前回、このコーナーでチョウゲンボウの羽根について紹介しました（Vol.3 参照）。その時に、額に入れることで展示物として生かすことができないかと考えていたのですが、早速できました。並べ方にはずいぶん悩みましたが、右翼分がやや少なかったこともあり、バランスが悪く思ったので左翼と右翼をあえて左右対称にしない配置にしてみました。



随時展示中ですが、都合により展示していない場合があります。ご覧になりたい方は、職員スタッフまでお声がけ下さい。

## クマタカの羽根も公開中！！！！

8月27日、私の後輩の鳥っこたち3名が当館を訪れ、彼らと一緒に羽根を並べ、どの部位なのかを精査しました。その結果オオタカやトラフズクなど数種類の羽根が同じケースに入れられていたことがわかりました。またクマタカは様々な部位の羽根が束になった状態で紙袋に保管されていたのですが、羽根を得意とする高橋君、その他勉強中の2名の作業によりあっという間に風切り羽と尾羽が浮かび上がってきたのでした。それに基づき展示用に仕上げてみましたので紹介します。



↑高橋雄成氏によるレクチャー



クマタカ 1羽分の初列風切り～次列風切り羽の両翼が額に納まりました。こちらにも展示していない場合がありますので、ご覧になりたい方はスタッフまでお声がけ下さい。



クマタカの尾羽の部分です。こちらは展示コーナーに展示中です。クマタカの頭部と胸骨も同時展示中。

## ★小学校の自然体験学習に協力しました★

6月下旬～7月上旬の間に地元酒田市の小学校4校による鳥海山自然体験学習を受け入れました。「エコバッグ作り」や、「鳥海山を作ろう」など地元の自然に関する体験をしてもらったり、鳥海イヌワシみらい館の展示室の見学をしてもらったりしました。鳥海イヌワシみらい館としても、小学校の自然教育プログラムに参加させてもらうことは初めてのことで、大変良い経験ができました。後日お礼のお手紙もいただきました。子供達の笑顔が忘れられませんね! また来年もお待ちしています!

(写真: エコバッグ作りを体験する小学生)



## ☆中学校の職場体験学習を受け入れました☆

7月6日(金)、地元の酒田第三中学校より生徒3名が職場体験学習に来館してくれました。ちょうど剥製の展示入れ替え時期で、展示パネル作成のお手伝いをしてもらいました。短い時間での体験活動でしたが、来館者のためにわかりやすく展示物を作ることを学んでもらいました。作成してもらったこのパネルは、現在も展示室にて活躍中です。



## ◆インターンの学生を受け入れました◆

関東の女子大生をインターンとして受け入れました。職員による館内の展示解説で、鳥海イヌワシみらい館の役割を理解してもらったあとは、夏休みの期間中ということもあって、館内で行われている「夏休み体験プログラム」を体験してもらいました。午後からは長船アクティグレングジャーと共にフィールドでの猛禽類の調査と、猛禽類の体から排出される「ペリット」の分析をしてもらいました。初めての体験にとまどいながらも、猛禽類の保護活動について深く理解してくれたようです。

(写真: フィールド調査と研究室でのペリット解析実習)



## ◇鳥海イヌワシみらい館に現れたお客様◇

当館の駐車場には少し小高くなっている園地があります。9月12日午後にはその園地の上にモゾモゾと動く毛むくじらの生物が現れました。

長船アクティグレングジャーが近づいても全く気づかずに、一心不乱に地中を探っています。どうやら「アナグマ」のようです。見た目はタヌキに似ていますが、クマでも狸でもなく実はイタチの仲間。視力が悪いといわれるとおり、人間が近くにいることに全く気がついていない様子。雑食性で主にミミズやキノコなどを食べている彼らですが、白昼堂々と地中を掘りながらエサを探す姿に自然の厳しさを感じた日でした。(写真: アクティグレングジャー 長船裕紀)





